

目標達成計画

事業所名 グループホーム めぐみの

作成日： 令和 3年 4月 4日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取組内容	目標達成に要する期間
1	4	【運営推進会議を活かした取組】 運営推進会議の資料・議事録をご家族全員に送付をしていない現状がある。ご家族には運営推進会議というものの存在や会議開催の意義などの周知が図れていないことから、事業所の活動の内容やヒヤリハット及び事故報告に対する取り組みについての具体性なども記してお伝えし、より透明性をもった運営と、運営推進会議への理解と興味をもっていただけのような工夫が必要である	ご家族には運営推進会議での、会議内容をお伝えすることで、当ホームの活動内容へのご理解を深めていただき、意見できる機会がふえることで、サービスの向上に活かすことができる	①運営推進会議の活動報告資料、会議議事録を家族全員を対象に、利用料金の支払いの時にお渡しする。支払いに来られないご家族には、郵送にてお渡しする ②運営推進会議の開催にあたっての主旨、目的などの説明を記した文書を送付する ③運営推進会議の資料をお渡しする際に、ご家族にご意見等がないか確認できる書類を添付する	6ヶ月
2	26	【チームでつくる介護計画とモニタリング】 介護計画の作成が計画作成担当者が主体となって作成されているが、より入居者が生活の主体者となって、自立支援に向けた介護計画書ができるよう、スタッフ全員が介護計画作成に関与できる仕組みの確立、またご家族の希望が反映された介護計画の作成ができるよう改善が必要である	介護計画作成において、ご家族の意向を確認できる工夫をし、きちんと介護計画に反映できるようにする。また介護計画作成をスタッフ全員で取り組めるようにし、より入居者の尊厳が保たれ、主体的に生活できるような介護計画作りをする	①コロナ禍というのもあるので、介護計画の更新月には書面をもって、ご家族の意向を確認する ②ユニット会議などでスタッフから介護計画の実施状況の確認を行うことは継続しつつ、今後は計画作成担当者が暫定的に作成した介護計画書をもとに、担当スタッフが追記事項や修正を行う機会を作る	1年
3	6	【身体拘束をしないケアの実践】 現任職員への計画的な身体拘束や虐待の研修会ができていない	身体拘束や虐待に関する研修会の開催についての計画を立案し、新人職員のみならず現任職員も研修会を受講し、職員全体で虐待や身体拘束に対する知識を深めることができる	①年度ごとに、身体拘束や虐待に関する研修会の開催についての計画を身体拘束・行動制限検討委員会、もしくは各ユニットで立案する ②研修計画に沿って、現任職員も受講できる研修会を開催する。受講できない職員もするため、年2回の開催は最低行う	1年
4	35	【災害対策】 ハザードマップでも自然災害が少ない地域ではあるが、火災以外を想定した避難訓練の実施を行い、災害等に対する備えが必要である	年2回の火災を想定した避難訓練の実施の他に、地震や停電、感染症の蔓延などを想定した避難訓練やその他安全対策についての取り組みについての訓練を実施し、有事の際に訓練した成果を実践できる備えができる	①地震での災害を想定した、避難訓練を実施する ②停電が起きた時の対応についての議論を行い、設置している発電機についての確認や、いざ停電が起きた時のスタッフの行動についての再確認を行う ③感染症(新型コロナウイルスなど)に対する予防や蔓延防止の取り組みについて、ユニット会議や定期的な訓練を通じて確認していく	1年

注1)項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入してください。

注2)項目数が足りない場合は、行を追加してください。